

Museum Collection Exhibition
Armor, Swords,
and Sword Fittings:
A Mitsumura Collection Digest



浅葱紺糸威胴丸具足 日本・江戸時代 18〜19世紀 根津美術館蔵

企画展
かっちゅう
かたな
とうそうぐ
甲冑・刀・刀装具
光村コレクション・ダイジェスト



重要美術品 太刀 銘長光 日本・鎌倉時代 13世紀 根津美術館蔵

明治42年(1909)、渋沢栄一を団長とする渡米実業団の一員として横浜を出港しようとしていた初代 根津嘉一郎は、3000点以上におよぶ刀剣・刀装具のコレクションを、実物を全く見ることなく一括購入しました。このことについて嘉一郎は後年、自身に刀剣の趣味はないものの、苦心の大蒐集だから買っておいと語っています。優れた日本美術が海外に流出することを防ぐ意図もあったと思われます。そのコレクションを成したのが、実業家・光村利藻(号 龍獅堂・1877～1955)です。

利藻の蒐集は、長男・利之の初節句のために本物の緋威の甲冑と陣太刀を購入したことに端を発しています。明治30年、20歳の時です。まもなく後見人であり刀剣愛好家の二代住友総理事・伊庭貞剛の友人から刀剣を譲り受けたことで刀剣蒐集が加速度的に進み、対象はやがて刀装具にまでおよびました。驚くことに、彼の膨大なコレクションは実は、嘉一郎へとわたるまでのわずか10年ほどで形成されています。しかもそれは、刀装具を中心とした質も資料性も非常に高い作品群です。

今回は、現在当館が所蔵する約1200点の中から選りすぐった作品を、甲冑から刀、刀装具と広がった利藻の興味にそいながら展観します。これまでの刀剣・刀装具の展示に初めて甲冑を交えることにより、コレクションの全体像も見えることとなります。加えて公開・記録・技術保存といった彼の活動をあわせて紹介し、単なる愛好家にとどまらない、金工技術を支えた利藻の優れた業績を、あらためて知っていただく機会にもなることを願っています。

2023年 9月2日(土)～10月15日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>



あさぎ こんいとおどしどうまるのくそく
浅葱紺糸威胴丸具足
1領
日本・江戸時代 18～19世紀
根津美術館蔵

浅葱糸と紺糸を段威とした丁寧な仕立ての胴丸。兜の鉢裏に江戸の甲冑師「明珍式部紀宗介」の銘がきられている。兜の吹返や杏葉に「三追澤瀉紋」の金具が据えられ、同じ紋の流れ旗も付属する。



『光村刀剣会陳列品』（個人蔵）より
「浅葱紺糸威胴丸具足」陳列の様子

利藻はコレクションを秘蔵することなく積極的に公開している。神戸の自邸で、明治35年（1902）頃から開催した刀剣会の様子は、『光村刀剣会陳列品』という小冊子から知ることができる。甲冑も披露されており、「浅葱紺糸威胴丸具足」も流れ旗と共に陳列されている（右奥）。



重要美術品
太刀 銘 長光
1口
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵

利藻が蒐集した刀剣は新古、大小2000口におよんだともされるが、その全体像は不明である。現在根津美術館に遺る刀剣は、古刀では備前、新刀では京・大坂の作品が多い傾向がある。長光は備前長船派を確立した名工で、本作はその晩年の、丁子に互目を交えた刃文を見せる典型作である。



さわらびかな くわきざしこしらえ
早蕨金具脇指拵
うんのしょうみん
海野勝珉作
1具
日本・明治時代 20世紀
根津美術館蔵



モダンな早蕨文で統一された、鞘の末端が尖った突兵拵の総金具。海野勝珉（1844～1915）は利藻がその技術に傾倒し、もっとも多くの作品を委嘱した水戸金工の名匠で、帝室技芸員に選出されている。



じごく だゆう ずつぽ
地獄太夫図鐔
ふかわかずのり
府川一則（二代）作
1枚 素銅地
日本・明治時代 明治36年（1903）
根津美術館蔵



髑髏の形が印象的な鐔。打掛の地獄変相図と髑髏がそれぞれ象徴する、遊女・地獄太夫一休宗純をめぐる話は当時人気の画題であった。府川一則（二代、1855～1919）は東京の金工で、内国勸業博覧会等での受賞も多い。

おにのねんぶつ ふえふきしぞうずめぬき
鬼念仏・笛吹地藏図目貫

おおつきみつひろ
大月光弘作

1組 鬼：鉄地 地藏：赤銅地

日本・江戸時代 19世紀

根津美術館蔵



光村コレクションの刀装具の特色の一つに、京金工・大月派の作品が充実していることがあげられる。念仏を唱える鬼と笛を吹く地藏を組み合わせた本作は、繊細な彫りに加え、それぞれの地金をたがえるこだわりも見所である。

重要文化財指定記念 特別出品



初代根津嘉一郎の武具の購入は、光村コレクション以外はずかである。その中であって本作は、室町時代の腹巻ではまれな当初のものと思われる札板や威がほぼ遺っており、金具も含めて総体に精緻な仕立ての優品として、昨年度、重要文化財に指定された。

重要文化財

くろかわかたどりおどしのはらまき

黒章肩取威腹巻

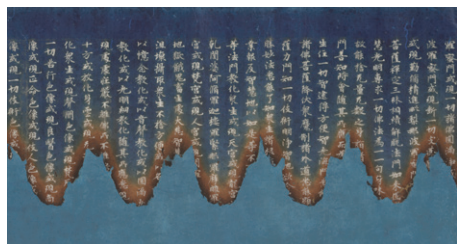
1領

日本・室町時代 16世紀

根津美術館蔵

展示室5 二月堂焼経―焼けてもなお煌めく―

寛文7年（1667）に東大寺の二月堂の火災で焼損し、「二月堂焼経」と呼ばれる華嚴経。奈良時代の紺紙銀字経の現存作品はこの焼経のみで、大変貴重です。写経生による謹厳で端正な銀字にご注目ください。



重要文化財

けごんぎょう
華嚴経 卷第四十六
(二月堂焼経)

1巻 紺紙銀字

日本・奈良時代 8世紀

根津美術館蔵

展示室6 月見の茶

秋の夜は澄んだ空気の中、月を鑑賞する習わしがあります。これにちなんで、月にまつわる茶道具を取り合わせます。



重要美術品

いろえむせしのすぢわん
色絵武蔵野図茶碗

京都 野々村仁清作
のむらにんせい

1口

日本・江戸時代 17世紀

根津美術館蔵

銀を塗りつめてあらわした夜景に、白抜きの満月を浮かべ、そこに秋風にそよぐ薄が描かれている。京焼の野々村仁清が、武蔵野の風景を大胆にデザインした一碗。

同時開催

もと六十巻本であった二月堂焼経は、奈良時代の紺紙銀字経で現存する唯一の遺例。中でも本紙の首尾を完存するのはこの「巻第四十六」と「巻第一」（個人蔵）のみである。

開催概要

- 展覧会名 企画展「^{かっちゅう}甲冑・^{かたな}刀・^{とうそうぐ}刀装具—^{みつむら}光村コレクション・ダイジェスト—
日時指定予約制 ご来館前に当館ホームページでの日時指定入館券の購入にご協力ください。
(招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
- 主催 根津美術館
- 開催期間 2023年9月2日〔土〕～10月15日〔日〕
- 開館時間 午前10時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日
ただし、9月18日〔月・祝〕、10月9日〔月・祝〕は開館、翌火曜日休館。
- 入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円)
・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
・当日券(一般1400円)も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたしますので、当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
・2023年8月29日〔火〕より当館ホームページで予約を受け付けます。
・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。
- アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
- お問合せ Tel. 03-3400-2536(代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>
- 広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所/村岡
Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展

特別展「^{ほくそうしょ}北宋書画精華」
2023年11月3日(金・祝)～12月3日(日)



左：重要美術品「五馬図巻」(部分) 李公麟筆
中国・北宋時代 11世紀
東京国立博物館蔵
Image: TNM Image Archives

右：「孝経図巻」(部分) 李公麟筆
中国・北宋時代 元豊8年(1085)頃
メトロポリタン美術館蔵

中国・北宋時代を代表する画家の一人、李公麟(1049?～1106)の幻の真作「五馬図巻」(東京国立博物館蔵)が約80年ぶりに出現したことを契機とし、同時代の名品を一堂に集めます。米・メトロポリタン美術館の所蔵作品も特別出品。

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2023.6)